令和３年度　全国学力・学習状況調査の結果について

令和３年１０月１１日
枚方市立長尾中学校

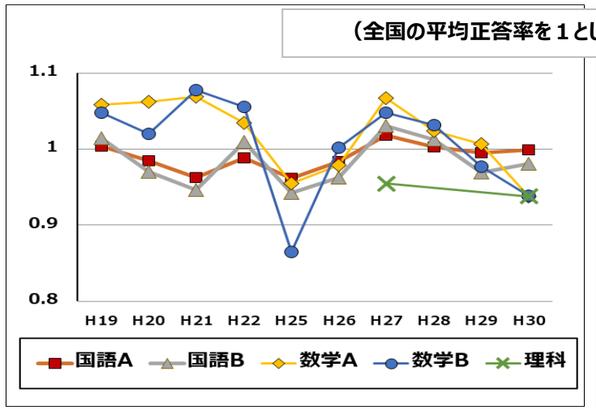
文部科学省が今年5月に実施した令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

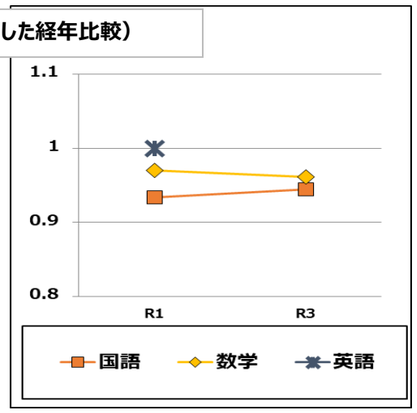
【全体概要】

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。
（※令和元年度より、A･B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。）





<学力調査結果の概要>

〇国語について

平均正答率は、全国比-3.6 ポイント、大阪府比-1ポイントといずれも下回る結果となりました。しかし観点別に細かく見ると「国語への関心・意欲・態度」（記述式問題）、「話す・聞く能力」、「書く能力」の正答率は大阪府平均を上回っており、質問紙の結果からも国語に対する興味関心が非常に高く、「聞く・話す・書く」能力は育っていると考えます。課題は「読む力」「言語についての知識・理解・技能」にあり、今後の授業等で力をつけさせます。

〇数学について

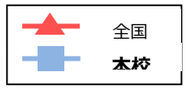
四則演算を用いた基礎計算力を問われる問いや、選択式の問いに関しては、全体的に良好な結果でした。しかし、関数の意味を理解し、言葉で正確に表現する力に関しては課題がみられました。また、分野別の結果については、「数と式」「資料の活用」は良好でしたが、「図形」には課題がみられました。全国に比べ無解答率が高く正答数分布がいわゆる「ふたこぶラクダ」になっていることからも、学力の二極化傾向がみられます。

※本調査は、平成 19 年度から実施されています。
※平成 23 年度・令和2年度は中止、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。
※英語の調査は、令和3年度は行われておりません。
※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

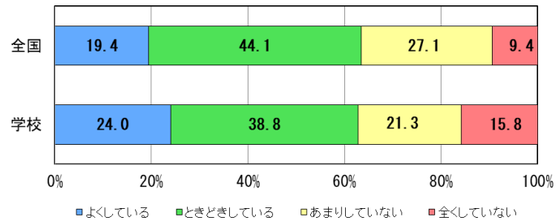
質問紙調査の結果

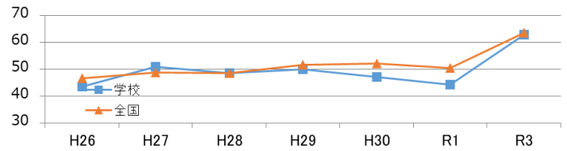
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

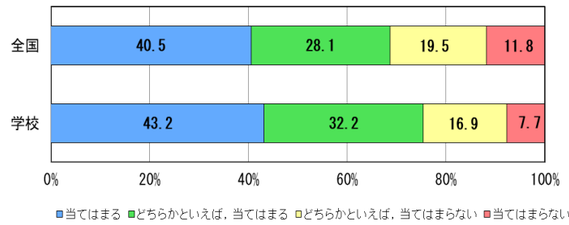


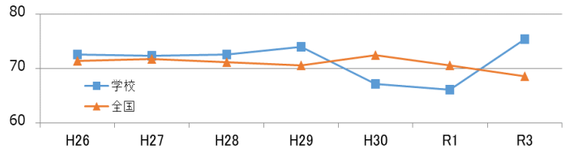
家で自分で計画を立てて勉強をしている



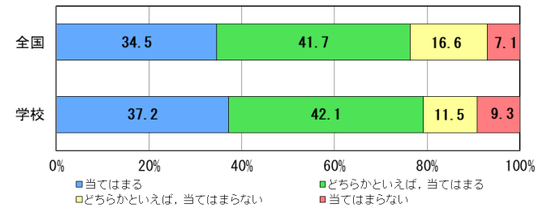


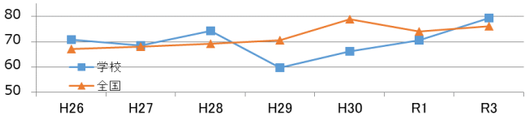
将来の夢や目標を持っている



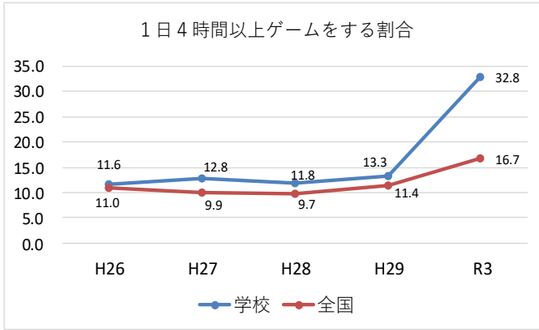


自分には良いところがある





月曜から金曜まで、１日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか



<質問紙調査結果の概要>

設問「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」、「難しい事でも失敗を恐れないで挑戦している」に対する本校の肯定的回答率が全国平均を上回り、経年比較のグラフからも本校生徒の自己肯定感・自己有用感が年々高まってきていると考えます。また、これまで本校の課題の一つであった家庭学習においても「家で計画を立てて勉強している」の肯定的回答率が全国平均とほぼ同等となり、1時間以上勉強する割合は 1.2 ポイント上回りました。この事から、家庭学習が少しずつ定着してきていることがわかります。気になるのは、テレビゲームを1日4時間以上する生徒の割合が全国平均の約2倍ほどあり、コロナ禍による学校の休業や教育活動の制限、社会全体の自粛生活によって様々なストレスを抱えた子どもたちが、インターネットやゲームに多くの時間を費やすようになっている傾向が伺えます。

まとめ

学力調査の結果は国語・数学ともに全国平均を下回りましたが、これら教科に対する生徒の関心は高く、質問紙調査の設問「（国語・数学の）勉強は好きだ」に対し多くの生徒が肯定的に答えています。特に国語に関する全ての設問において肯定的回答率が全国平均を上回っており、これは主体的・対話的で深い学びの視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」を重視しながら、これまで国語科を中心に授業改善に取り組んできた成果が表れたものと考えます。また、「自分には良いところがある」の設問に対する肯定的回答率が年々高まっており、今回、全国平均を抜いて過去最高となりました。このことから、本校生徒の自己肯定感・自己有用感の高さが伺えます。本校は平成29年度から「世界で一番通いたい学校」をスローガンに、教職員が生徒一人ひとりにしっかりと向き合い、諸課題に対し丁寧に対応しながら、様々な体験を通して成就感や達成感を味わわせてきた結果と考えます。

【詳細について】

教科に関する調査

＜国語＞

成果や課題があった設問

【成果】

参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、その理由を書く。

1 三

西中学校の大野さんの発言⑥のあとで、参加者の一人が発言します。あなたは、誰がどのようなことを発言するとよいと考えますか。また、そのように考えたのはなぜですか。本田さん、石川さん、山下さんの中から一人を選び、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1　【話し合いの一部】の①～⑥までのやりとりを踏まえ、どのようなことについて発言すればよいか書くこと。

条件2　条件1のように考えた理由を具体的に書くこと。

選んだ理由

A本田さん　B石川さん　C山下さん

	正答率	無解答率
本校	57.3	1.6
全国	57.1	3.4

（考察）

この問題は記述式で、自分の考えを理由を示しながら答える問題です。この問題に関しては正答率・無回答率ともに全国平均・大阪府平均より良好な結果でした。これは、新学習指導要領「主体的、対話的で深い学び」を踏まえ、授業での話し合い活動や文章を書く活動を継続して行ってきた成果が結果につながったと思われます。

【課題】

「反対の結果を呈出した」について、このことがわかる「黒」（本文の小説に出てくる猫）の様子を文章中から抜き出す。

3 三

次は、夏目漱石の作品『吾輩は猫である』の本のカバーに書かれている【紹介】と【文章の一部】です。

・・・ふしぎにも反対の結果を呈出した。②・・・

―線部②「反対の結果を呈出した」とありますが、このことは「黒」のどのような様子から分かりますか。【文章の一部】の中から探し、抜き出しなさい。

	正答率	無解答率
本校	62.3	12.0
全国	71.0	7.3

（考察）

この問題だけでなく、他の正答率の低い問題に共通している課題は「呈出（ていしゅつ）」「呼吸を飲み込んだ」「随時」「行くの謙譲語」などの言葉を知らない、理解できない語彙力の低さがあります。対策として教科書の作品だけでなく、言葉自体と触れ合う機会を多く設ける授業内容、そして触れた言葉を実際に使用させる授業展開を実践していきます。

＜数学＞

成果や課題があった設問

【成果】

整式の加法と減法の計算ができる。

1 $(5x+6y)-(3x-2y)$ を計算しなさい。

	正答率	無解答率
本校	82.0	1.6
全国	77.1	0.8

（考察）

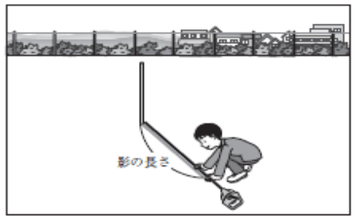
全国の結果と比べて、本校の正答率が上回り、なおかつ無解答率が下回った問題です。普段から授業の中で、今までの復習として計算問題を繰り返し練習していた成果が出たものと考えられます。

また、無回答率の低さも、何度も解いてきた問題ということもあって、取り組もうという意欲がわいたものと考えられます。今後も基礎知識を養わせるとともに、応用力も身につけさせたいと考えます。

【課題】

関数の意味を理解し、正確に表現できる。

4 長さが1mの棒を地面に対して垂直に立てたときにできる影の長さについて，ある日の午前8時から1時間おきに，午後4時まで調べました。



次の表は，午前8時から経過した時間とそれに対応する影の長さを表しています。

午前8時から経過した時間と影の長さ

経過した時間（時間）	0	1	2	3	4	5	6	7	8
影の長さ（cm）	190	124	96	80	79	96	130	193	350

このとき，午前8時から経過した時間と影の長さについて，「経過した時間を決めると，それにともなって影の長さがただ1つ決まる」という関係があります。

下線部を，次のように表すとき，［　①　］と［　②　］に当てはまる言葉を書きなさい。

［　①　］は［　②　］の関数である。

	正答率	無解答率
本校	40.4	14.8
全国	48.0	9.3

（考察）

全国の結果と比べて、正答率が最も低かった問題です。経過した時間と影の長さの関係を「…は…の関数である」という形で表現する問題でした。

関数については、授業でも根気よく取り組みましたが、時間や長さの関係を、厳密に言葉で表現する問題には慣れていなかったことが考えられます。数学的な表し方で事象を表現する経験を積ませていきたいです。

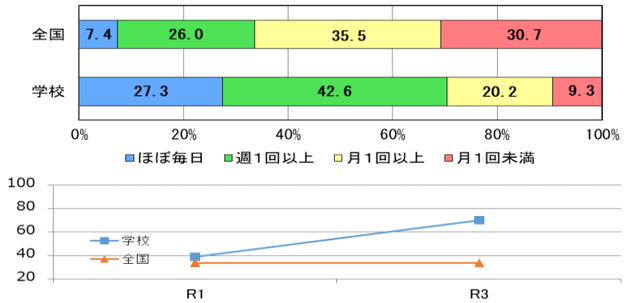
質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。

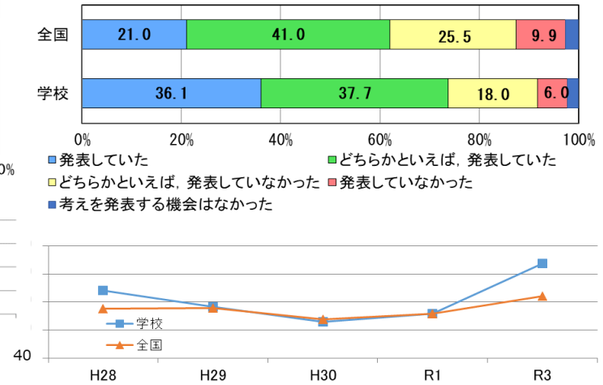
全国
本校

【成果のあった項目】

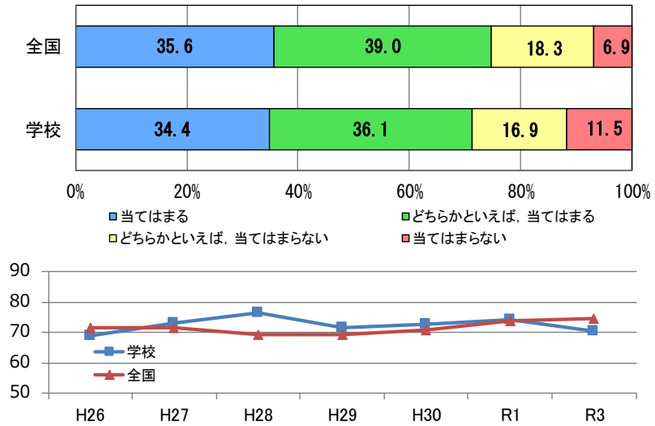
1.2 年生ときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか



授業で自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表していましたか

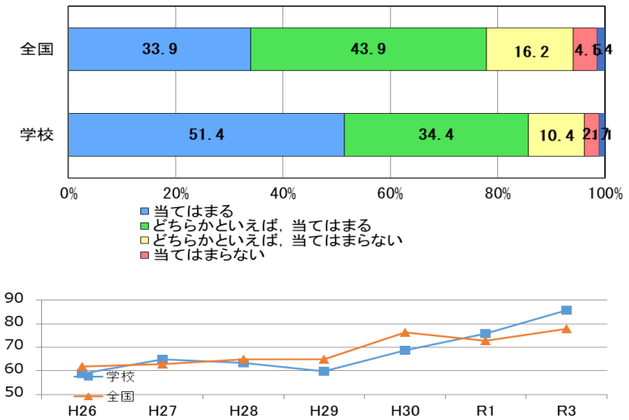


数学の授業の内容はよくわかる



（考察）
本調査「毎朝朝食を食べている。」に対する肯定的回答率は、平成28年度から連続して全国平均を下回り、本校の課題のひとつでした。一昨年度は全国平均と並んだものの、今年度は再び下回る結果となりました。毎日、朝ごはんを食べる子どもほど学力が高い傾向があることは、文科省からも一貫して示されています。ご家庭の協力をよろしくお願いします。
教科に関係する設問中「英語は好きだ」と「数学の授業の内容はよくわかる」の2設問の肯定的回答率が全国平均を下回りました。英語においては、導入で英語を用いたゲームやクイズなどの活動を通して生徒の興味・関心を高めさせ、生徒同士の会話やグループでの学び合いを通してわかる喜びを実感できる授業づくりを行っていきます。また、数学においては入学前から「わかる子」「わからない子」の差が大きく、その差を縮めることが教科の大きな課題と考えます。授業の最初にその時間の学習と関連した復習を取り入れたり、最後の演習プリントの中に基礎・基本問題を入れたり、また、コロナ禍に配慮しながらもグループワークの時間を取ったりすることで、「わかる授業」が図られるようにしていきます。

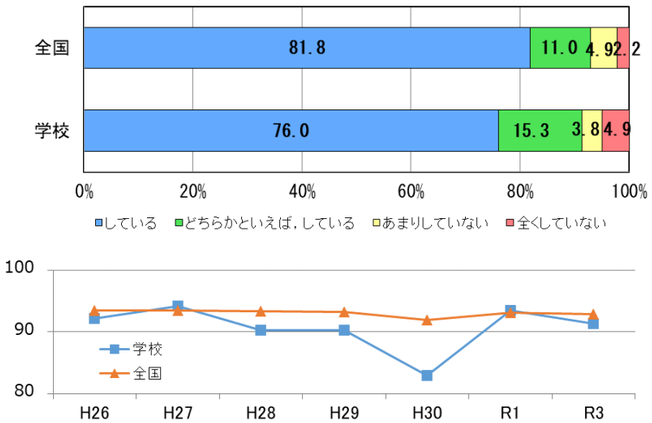
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



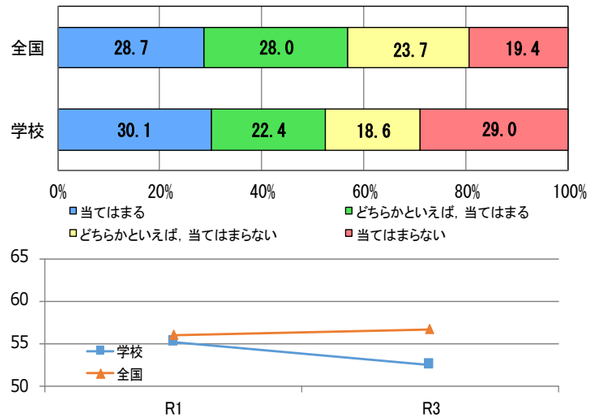
（考察）
一昨年度に全普通教室にプロジェクターが配備され、また、昨年度2学期にはひとり1台のタブレット端末が配られました。このことにより、ICT機器を活用した授業はほぼ日常となってきています。昨年度の学校教育自己診断「ICT機器を使った授業はわかりやすい。」に対する肯定的回答率は87%とたいへん高い数値となっており、今後増々活用の充実が求められています。
また、今年度から本格実施されている中学校新学習指導要領の教育内容の改善事項のひとつである「言語活動の充実」について、本校では一昨年度から国語科をはじめ各教科等で記録、説明、批評、論述、討論など協同学習の充実に力を入れてきた成果が、今回の調査結果に表れ始めていると考えます。今後も生徒の学習基盤となる①言語能力、②情報活用能力、③問題発見と解決能力の3つの力の育成をめざします。

【課題が残った項目】

毎朝朝食を食べている。



英語の勉強は好きだ



分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

（1）授業改善について
今年度、長尾中学校のめざす子ども像を『生徒自らが課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていける生徒』とし、子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりの研究・実践を進めてきました。また、枚方市の「外部知見を活用した学力向上研究モデル校事業」の研究指定を受け、授業方法等について外部有識者の意見を取り入れながら、新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に取り組んできました。
具体には、すべての教科において「めあて」をしっかりと提示し、授業中のペアワークやグループワークを通じて生徒自身が発表したり友達の意見を聞いたりする時間を取ることで、自分の考えをさらに深めていく授業の展開をめざしています。また、生徒が自分の学びを自己評価できるよう、判断基準を明確に示した「振り返り」を行うことで、主体的に学ぶ生徒の育成につなげます。さらに、昨年度配布されたiPadの有効活用について、特に、学びに向かう姿勢が低い生徒の興味・関心が高まるよう、各教科代表からなる「授業づくり委員会」で意見を出し合いながら、教科部会や校内研究授業を通して活用実践を広げていきます。今後も「わかる喜び」と「学ぶ楽しさ」を生徒自身が実感できる授業づくりを目標に取り組んでいきます。

（2）家庭学習について
これまで本校の課題の一つであった家庭学習について、設問「家で計画を立てて勉強している」の肯定的回答率が全国平均とほぼ同じとなり、また、1時間以上勉強する割合は全国平均を 1.2 ポイント上回りました。これは、昨年度のコロナ禍による3ヵ月にも及ぶ休業期間中において家庭での学習が習慣化したことや、また、一人1台のタブレット端末が配られたことで課題の配布・回収が容易になったことが原因の一つとして考えられます。本校では、年度当初に配る「家庭学習の手引き」の中で、「家庭学習のアドバイス」として各教科ごとに初級・中級・上級編にわけて家庭での勉強の仕方について解説しています。学校で学習したことを家庭で復習することで習熟 ・定着が図られ、学ぶ習慣が身につきます。今後も家庭学習の更なる充実に向け、学校として組織的に取り組んでいきます。